

令和5年度  
一関修紅高等学校一般入学試験問題

第1時限

(1月20日 8:50~9:40)

国語

(注意)

- 1 「始めなさい。」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
- 2 答えは、必ず解答用紙の「答」の欄に記入しなさい。問題用紙に書いても無効です。
- 3 答えは、記号・文字・言葉・文などで書くようになっていますから、問題をよく読んで、定められたとおりに書きなさい。
- 4 書き誤りをしたときは、きれいに消してから新しい答えを書きなさい。はっきりしない答えを書いた場合は、誤りとされます。
- 5 解答用紙の※印の欄（得点の欄）には記入してはいけません。
- 6 時間内に書き終わっても、その場に着席していなさい。
- 7 「やめなさい。」の指示があったら、直ちに書くのをやめ、筆記具を置きなさい。
- 8 問題用紙は、表紙を含めないので12ページで、問題は6題です。

僕は、神戸の道場で合気道という武道を教えています。門人は今三〇〇人ぐらいです。僕のところでも段位や級は出しています。そういうものがある方が励みになるらしいから。ですから、門人たちは昇段級審査の前になると集中的に稽古けいこをします。なんとか時間をやりくりして道場に来て、自主的に稽古けいこをしている。そういうふう<sup>①</sup>に集中的に稽古けいこすることで、ある「壁」を超えるということも現にあります。

A、僕は段位や級を出すことの効用は認めています。B、それは「そういうもの」がある方が一人一人の力が伸びる確率が高いという経験知に基づいてのことです。段位の上下を比べたり、誰が早く昇段したのか、誰が遅いのかというようなことは一切口にしない。別に抑制しているわけではなく、僕はそんなこと考えたこともないから。門人同士を比べて、この人の方がこの人より巧うまい、この人の方が強い、というようなことは考えたことがない。門人同士<sup>②</sup>の相対的な優劣を比較することなんか、修業上何の意味もありません。優劣を比較する対象があるとしたら、それは「昨日の自分」だけです。「昨日の自分」と比べて「今日の自分」がどう変化したのか、それは精密に観察しなければなりません。昨日まで気づかなかったという感覚が芽生えたか、昨日までできなかったという動きができるようになったか。そこには注意を向けなければいけない。でも、同門の他人と自分を比べて、その強弱や巧拙などを論じても何の意味もない。本当に何の意味もないのです。修業の妨げにしかならない。

僕の師匠は多田宏先生という方です。以前先生から「他人の技を批判してはいけない」と教えられました。僕はそのときはまだ若くて、先生の意図がよくわからなかった。口には出しませんでしたけれど、「他人の技の欠点に注目するのは有用なのではないか」と内心では思いました。先輩の技を注視して、あの人はここがよくない、あの人はここが優れている、この道場では誰それさんがやっぱり一番うまい、あの人は段位は高いが技術は劣るとか、そういうことを同門同士で論じ合ってもいいんじゃないかと思っていたからです。それが修業の役に立つと思っていた。

C、僕が得心のゆかない顔をしていたからでしょう、先生は僕の方を見て、「他人の技を批判してうまくなるのなら、俺も朝から晩まで他人の技を批判しているよ」と言って笑って去っていかれた。そのときの先生の言葉が今でも心に残っています。他人と自分の間の技術の相対的な優劣など論じても、そんなことは自分の修業に何の役にも立たない。それを骨身にしみるような言葉で教えられました。

それは D、武道修業者の基本として、澤庵たくあんぜんじ禪師の『太阿記』<sup>たいあき</sup>の冒頭に掲げられている言葉です。

「蓋けだし兵法者は、勝負を争わず、強弱こたわに拘こたわらず、一步を出せず、一步を退かず、敵、我を見ず、我、敵を見ず、天地てんち未分みぶん陰陽いんよう不到ふとどうの処ところに徹てつして直ちかちに功こうを得えべし<sup>③</sup>」

兵法者の心得として、まず勝負を争わないこと、強弱にこだわらないことと書いてあります。修業の第一原則がこれなんです。相対的な優劣にこだわってはならない。それは自分の力を高めしていく上で必ず邪魔になる。勝てば慢心するし、負けたら落ち込む。そんなことは修業にとって何の意味もありません。修業というのは、毎日淡々と、呼吸をするように、食事をしたり、眠ったりすると同じように、自然に、エンドレスに行うことが肝要なのです。だから、修業には目

標というものがありません。

スポーツの場合だと、試合というものがありません。ある場所、ある時点で能力のピークが来るように設定して、それが終わったら、しばらく使い物にならないというようなことが許される。それは試合がいつどこでどういう形態で行われるか事前に開示されているからです。でも、武道が涵養<sup>(注)</sup>している能力はそういうものではない。どんな危機的局面に際会しても、適切にふるまうて、生き延びる力です。その語義からして、「危機」とは、それが何であって、いつどこで遭遇するかわからないものです。天変地異でも、テロでも、パンデミックでも、ゴジラ来襲でも、どんな状況でも適切に対応できる力を「兵法者」は修業する。それは試合に合わせて「ピーク」を設定するとか、ライバルとの相対的な優劣について査定したり、成績をつけたり、それに基づいて資源分配をするということとはまったく別の活動です。

(内田 樹「サル化する世界」による)

(注) 涵養……自然にしみ込むように養成すること。

(1) 本文中の空欄 **A** **D** には、それぞれどのような言葉が入りますか。次のア～エのうちから最も適当な組み合わせを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- |   |   |      |   |      |   |      |   |      |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ア | A | まさに  | B | たぶん  | C | でも   | D | ですから |
| イ | A | でも   | B | まさに  | C | ですから | D | たぶん  |
| ウ | A | ですから | B | でも   | C | たぶん  | D | まさに  |
| エ | A | たぶん  | B | ですから | C | まさに  | D | でも   |

(2) 傍線部① そんなこと考えたこともない とありますが、それはどうしてですか。次のア～エのうちから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 段や級で優劣を比較するより、「今日の自分」のことが重要だから。
- イ 集中して稽古をしても誰もが段や級をとることはできないから。
- ウ 段や級を目指すことで他の人と比べたり、誰が巧いとか、へたとか考えるから。
- エ 段や級を取るための稽古は自分の修業には何の役にも立たないから。

(3) 傍線部② 相対的な優劣を比較する とありますが、相対的な優劣を比較している例として適当でないものはどれですか。本文の主旨を踏まえて、次のア～エのうちから一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 今回の数学の試験は、クラスで三十人中三番目の成績だった。
- イ A君よりもB君の作品の方がデザイン・機能的に優れている。
- ウ 三度目の挑戦で、宿敵のCチームにやっと勝つことができた。
- エ 一〇〇メートル走において、自己ベストのタイムを更新した。

(4) 傍線部③ 直ちに功を得べし とありますが、これはどういうことですか。次のア～エのうちから**適当でないもの**を一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア まっすぐに力をつける修業をするべきである。  
イ すぐに成果を上げることができらるだろう。  
ウ 直ちに修業して誰にも勝る力をつけなければならない。  
エ ただひたすら自己の力がつくことを願うがよい。

(5) 次の会話は、本文を読んでもらったあとで、三人の生徒に感想を話し合ってもらったものです。空欄 X にあてはまる文を、本文中から**十六字**でそのまま抜き出して書きなさい。(5点)

Aさん —私は剣道部に所属しているので、内田さんが「昇段級審査の前になると集中的に稽古をします」と言っていることはよく分かりました。でも、それを含めて、いつもの部活動をしているときの相手より強くなりたいたとか、勝ちたいたとかの思いとは違うというのがよく分かりませんでした。

Bさん —そうそう、私もその違いがピンとこなかった。武道でも他の部活動でも違いはないと思うんだ。やっぱりライバルや相手チームがいてこそ目標ができるし、いないと練習にも力が入らないと思う。これは昇段級審査だからとかそうでないからとかじゃないんじゃないかな。

Cさん —私はちよつと違うな。内田さんは別に稽古や部活動に一生懸命に打ち込むことを否定しているわけではないんだよ。ただ、その目標をどこに置くかの違いだと思うんだ。相手よりとか相手チームよりとかというのは目先の目標じゃん。「それが終わったら、しばらく使えものにならない」って言ってる。だから内田さんは「勝負を争わないこと、強弱にこだわらないこと」で X をつけることを目標にすべきだと言っていると思うんだ。

## 北の春

丸山 薫

① どうだらう

この沢鳴りの音は

山々の雪をあつめて

轟々と谷にあふれて流れくだる

この凄じい水音は

緩みかけた雪の下から

一つ一つの木の枝がはね起きる

それらは固い芽の珠をつけ

② 不敵な鞭のやうに

人の額を打つ

やがて 山裾の林はうつすらと

緑いろに色付くだらう

その中に 早くも

辛夷の白い花もひらくだらう

朝早く 授業の始めに

一人の女の子が手を挙げた

先生

がきました

〔仙境〕による

(1) 詩の中の□には、どのような言葉が入りますか。次のア～エのうちから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 烏からす      イ 燕つばさ      ウ 雁がん      エ 郭公からこう

(2) 傍線部① どうだらう とは、ここではどのような意味で使われていますか。次のア～エのうちから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア いかげなものであるうか。      イ なんとということだろうか。  
ウ どうしたのでしょうか。      エ どれぐらいでしょうか。

(3) 傍線部② 不敵な鞭のやうに／人の額を打つ とありますが、これはどのような様子を表したものでですか。それを次のように説明するとき、□にあてはまる言葉を二十字以内で書きなさい。(4点)

降り積もっていた□様子。

(4) 次のア～エのうち、この詩の表現上の特徴として最も適当なものはどれですか。一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 日常的現実を、特異な見方や感じ方は避け、素朴で平明な言葉で感動を描いている。  
イ 口語独特の音楽性を引き出し、近代の病的な神経と感覚など錯綜する精神を描いている。  
ウ 比喩を多用し、あえて句読点を省くことで現実にはあり得ない世界を象徴的に描いている。  
エ 平易な言葉で、ほとぼしる感情を抑制しながら、事実や現象を冷徹な目で描いている。

(5) 次のア～エのうち、この詩に表現されていることとして最も適当なものはどれですか。一つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

- ア 山村の人々の生活をただけしい圧倒的な力で、閉ざし覆いつくす自然の猛威を表現している。  
イ 春の到来とともに変化していく周囲の情景を色覚的に捉えることで、自然の清澄感を表現している。  
ウ 訪れてくる山村の春の風景を細やかに描写することで、喜びにあふれた村人の心情を表現している。  
エ 変わりゆく季節の中で、雪国の自然の美しさや生命力から受けた素朴な感動を表現している。

次の文章を読んで、あとの(1)～(4)の問いに答えなさい。

(15点)

(注1) 筑紫に、なにがしの押領使(注2)などいふやうなる者のありけるが、土大根(注3)を、よろづにいみじき薬とて、朝毎(あさごと)に二つづつ焼きて食ひける事、年久しくなりぬ。或時館(あるときたち)の内に、人も無かりけるひま(すき)をねらつて、敵襲(かたき)ひ来て困み攻めけるに、館のうち(こ)に兵二人いできて、命を惜しまず戦ひて、皆追ひ返してけり。いと不思議に覚えて、「日頃(こころ)此所(こゝ)にもものし給ふとも見えぬ人々の、かく戦ひし給ふは、いかなる人ぞ」と問ひければ、(長年信頼して、)「年来(としより)たのみて、朝(毎朝)な朝(毎朝)な召しつる土大根にて候ふ」といひて失せ(あ)にけり。(こゝいう「利益もあつたのであらう」)深く信をいたしぬれば、かかる徳もありけるにこそ。

(「徒然草」による)

(注1) 筑紫……現在の福岡県の古称。

(注2) 押領使…罪を犯したり、国を乱したりする者があるとき、地方にあつて兵を率いてこれを討つ役。

(注3) 土大根…だいこん。

(1) 本文中の「押領使」の読み方は、歴史的仮名遣いで「あふりやうし」と書きます。この読み方を現代仮名遣い                    に書き改めなさい。(3点)

(2) 波線部 A 問ひければ、波線部 B 失せにけり のそれぞれの主語は誰ですか。次のア～エのうちから最も適当なものを一つずつ選び、その記号を書きなさい。(2点×2)

ア 押領使      イ 兵      ウ 敵      エ 作者

(3) 傍線部① 兵二人いできて、命を惜しまず戦ひて とありますが、その理由を次のように説明するとき、                    にあてはまる言葉を二十字以内で書きなさい。(4点)

押領使がすばらしく効き目がある薬だと信じて毎朝食べていてくれたこと                    から。

(4) 傍線部② 深く信をいたしぬれば、かかる徳もありけるにこそ とはどのようなことを述べたものですか。次のア～エのうちから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア 敵に襲われても必ず兵が守ってくれると信賴していたから、ご利益があつたということ。  
イ 長い間、誠実に押領使としての任務に努めてきたので、ご利益があつたということ。  
ウ 普段から贅沢(ぜいたく)をせず質素な暮らしを続けていたから、ご利益があつたということ。  
エ 日頃から仏に対する深い信仰心があつたので、ご利益があつたということ。

5

書籍や新聞などの出版物をはじめ、多くの人々の目に触れる文章を編集する作業の一つで、内容の正確性、表現や表記の適切さを確認する作業を「校閲」といいます。次の文章内の傍線部①～④の訂正部分について、( )内の文字数にあうように正しく書き改めなさい。

(2点×4)

現在もウイルス感染症の流行が収まらない。最初に大流行した時に取られた行動制限によって生産も消費も停止状態となり、まさに①困り(2字)目にたたり目といえる経済の停滞が私たちの生活を直撃した。当時、感染防止と経済活動の両立については、②ひな鳥(1字)が先か鶏が先かの議論や二兎追う者は一兎をも得ずなどと、生命を最優先するべきか生活を第一に捉えるべきかの激しい議論が交わされた。

その後、集団免疫の獲得やワクチン接種率が高まったこともあり、流行前ほどではないものの、ある程度の日常生活を取り戻すことができた。しかし、規制を緩めるとその度に人流の増加等で感染が再拡大し、せっかくの努力が水の③玉(1字)となるような同じ状態が幾度も繰り返されている。

人類とウイルスとの戦いは、ペスト・天然痘・コレラといった時代にもあり、そのつど医療の進歩と共に克服してきた。④未来(2字)は繰り返すのなら、コロナとの戦いにも人類は必ず勝利できるだろう。



## 6

次の(1)～(10)の傍線部について、漢字の場合は正しい読みをひらがなで書き、カタカナの場合はそれぞれにあたる漢字をかい書で正しく書きなさい。

(2点×10)

- (1) 先日都内で知人を見つけたのだが人込みに紛れて見失ってしまった。
- (2) 市長は反社会的な集団とは関係を絶って健全な街づくりに着手した。
- (3) 教室から廊下に出たらお客様がいらしたので会釈をしてすれ違った。
- (4) まだまだ寒い日が続いているが春の息吹も感じられるようになった。
- (5) 寒がりの母が部屋の暖房を強めにして薄着で過ごすとは本末転倒だ。
- (6) 新たに加したマネージャーは何かと気がきくともっぱらの評判だ。
- (7) これまでの練習の成果を存分に発揮しようと選手達が試合にノゾむ。
- (8) 姉は来月の人事イドウで海外支社に転属になると告げられたそうだ。
- (9) 両者のコメントの中身があまりにもタイシヨウ的で驚いてしまった。
- (10) 城主は日ごろより品行方正でセイレンケツパクな人物として名高い。